

## 歓迎の言葉



総長・学長

ながい  
永井 かずゆき  
和之

新入生諸君、諸君は今、何かしたいことがありますか。

何かしたいという諸君、君たちのしたいことが本学のキャンパスで、できないときには言ってください。本学のキャンパスは、多様な君たちのしたいことができるキャンパスにしたいと考えています。

何かしたいことがない諸君、君たちのしたいこと探しを応援します。本学のキャンパスは、君たちのしたいことを探せるキャンパスにしたいと考えています。

実際、本学のキャンパスの多様性ほど、他大学に類をみないと自負しています。でも、残念ながら、十分ではありません。しかし、十全を目指しています。それは、私たちが、

大学というところは、学生諸君に、夢と感動を与える場であればならんと考えているからです。そして、学生諸君が、将来の人生の生き甲斐を見つけられる場所であればならんと考えています。勿論、見つけない場所は、教室等における授業であるかも知れません。または、キャン

パスかも知れません。また、キャンパス外の社会との接点であるかも知れません。そこで、本学は、この本学で学び、学生生活を送れば、諸君が将来の生き甲斐を見つけ、そのために、学生時代に何を学ぶべきかわかり、どのように人間性を磨けばいいのかを知るキャンパスでありたいと考えています。

しかし、このことは正直に言って、大変難しい問題です。事実、諸君の感性は、人によって異なります。ということとは、感激する事項や場も、人によって異なります。また、諸君が心開いて、あらゆることを受け入れてくれなければ、成り立たないことでもあります。諸君は若いのです。若さとは柔軟性です。とりわけ心の柔軟性です。全てのことに関心を開いて、先入観なく、あるがままに物事を見てください。この本学のキャンパスでも、そこに何かが見えてくるはず。それが大学生活の第一歩です。

本学は実学を建学の精神としております。実学とは、社会の課題に 대응するということです。この実学の出発点は、社会の問題と感ずる感性にあります。この感性は、一方で、その人の人間性に根ざしながらも、他方では、学問で修練された頭脳にも根ざすものであります。諸君の心が開かれたならば、問題を問題と感ずる感性が、このキャンパスで涵養され、鍛えられることと思っております。

そして、本学の質実剛健の校風は、問題を問題として、自己の信念に従い、堂々と歩まれる人間を養成することであろうと考えています。それが本学の誇りであります。

諸君のこれからの学生生活が、将来の君たちの糧になることを願って、歓迎の言葉とします。

## 幅広い読書を



法学部長

いのうえ  
あきら  
彰

新入生の皆さん、入学おめでとう  
ございます。

大学生生活において一番難しいこ  
とは、お仕着せの授業がならぶ高校  
生生活と違い、どのような授業を選  
択するかにはじまり、生活全般を自  
分自身で決めなければならぬとい  
うことです。怠惰な暮らしを始めれ  
ばズルズルとその方向に流れてしま  
う可能性が強くなります。大学生活  
において一番重要なことは、自己規  
律であることを肝に銘じて下さい。

さて、法学を初めて学ぶ人にな  
れわれ教員がいつも強調しているこ  
とは、法学の答えはひとつではない  
ということなんです。私の専門である  
英米法から話題をひとつ提供しま  
しょう。昨年カリフォルニア州では  
同性のカップルに「婚姻」(Marriage)  
を認めることができるかどうかをめ  
ぐって裁判が行われました。婚姻は  
「男性と女性の結合」を意味する  
という伝統的な婚姻観からは、同性の  
カップルの「婚姻」は当然認められ  
ないということになります。が、婚姻

の自由を「自分自身のライフ・パ  
トナーを選択する自由」であると理  
解するならば、同性婚も容認される  
ことになります。

さて、もし皆さんが裁判官として  
この問題に判決を下さなければなら  
ないとしたらどうしますか。法律論  
としては、賛否いずれの立場も擁護  
できる論理を組み立てることは可能  
です。これが法学の答えはひとつ  
ではないということの意味です。し  
かし、どちらかを選択しなければな  
らないとしたら、どのようにその選  
択を行うのでしょうか。大げさな言  
い方をすれば、それまでの人生で  
培ってきた価値観に依拠して判断を  
下すことになります。大学では、こ  
のような選択を迫られたとき、多く  
の人々を納得させることのできる価  
値観を培ってほしいのです。それに  
は幅広い読書が必要です。法学の  
文献だけではなく、政治・経済・歴  
史・文学などさまざまな分野の文献  
を読みあさり、社会を知り、歴史に  
学び、そして他人の経験や考え方を  
学び、豊かな人間性を育ててくだ  
さい。

## 学びの再構築



経済学部長

まつまる  
かずお  
松丸 和夫

経済学部へのご入学おめでとうご  
ざいます。経済学部は、社会と結び  
つく人の育成を目指してさまざまな  
改革に取り組んでいます。経済学部  
を代表して、新入生のみなさんを心  
から歓迎いたします。

今日、新たに大学生として生活を  
開始されるみなさんに考えていた  
きたいことが二つあります。一つは、  
自分は大学で何を身につけたいのか。  
二つめは、大学を卒業したら自分は  
どんな人生を送りたいのかというこ  
とです。

大学に入学するということは、み  
なさんご自身はもとより、ご父母や  
ご親族にとっても大きな喜びでしよ  
う。しかし、これから過ごす4年間  
の大学生活で、何も身につけるもの  
がなかったとしたら大学で学ぶこと  
に何の意味がありません。

今日まで、みなさんは勉強すると  
いうことについてどんな考え方を  
もつてきましたか。やれといわれる  
から勉強する、勉強とは忍耐力の涵  
養だ、将来の可能性を開く上で必要  
だ、勉強をおもしろいと思ったこと  
はない等々、百人百様でしょう。そ  
れはそれで結構なことだと思います。  
しかし、大学で勉強することだとい  
うことの本質的な意味は、「みずから課題  
を発見し、その解を求め」ること  
にあるのではないのでしょうか。これま  
での勉強に対する姿勢、勉強の方法  
を一度根本から見直し、大学での学  
修について深く考えてみましょう。  
問題に対する正解らしいものをどこ  
からか探してきて、コピー&ペース  
ト(引き写し)することはいただけ  
ません。

人の一生は、学びの連続です。人  
生において学びに終わりはありませ  
ん。大学生にふさわしい学びの再構  
築にチャレンジしてください。

# 学生生活の心構え



商学部長

いしかわ  
てつお  
石川 鉄郎

ような学生生活を送るべきなのか、ということに常に意識することが何よりも大切なのです。

商学部の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは今日から中央大学商学部の学生となるわけですが、これからのような学生生活を送りたいと考えていますか。商学部で学んでみたいと思うこと、あるいはやってみたいと思うことはありますか。何のために商学部に入学したのですか。学部での学生生活をスタートさせるにあたって、まずは将来の進路などを意識しながら、学生生活の目標についてじっくりと考えてほしいと思います。

学生生活を送るにあたって、自分の将来に思いをめぐらせながら、学生生活の目標を意識することが大切なのは、大学は「社会人・職業人となるための準備の場」という側面を持つているからです。皆さんは、学生生活を通じて、社会人・職業人となるための準備を行うのであり、自分はいかにしたいのか、そのためにはどの

しかし、目標を定め、一生懸命努力しても、思いどおりに望みが叶えられないとは限りません。いやむしろ、物事は思いどおりに運ばないことが多いかもしれません。人生には失敗や挫折は付き物であり、そのような困難を乗り越えることにより、人間は成長していくのです。同じことは学生生活にもあてはまります。失敗や挫折を恐れず、学生生活を通じてさまざまなことを経験してみてください。大学は「人間としての成長の場」という側面も持っているのです。

最後に、大学は「純粋な学びの場」でもあるということを強調しておきたいと思います。ある目的のための手段としてだけでなく、学ぶことそれ自体の楽しさや面白さを味わうことも、学生生活では大切なことです。知的好奇心を旺盛にして、学問に接してみてください。

皆さんの学生生活が充実したものとなることを期待しています。

# 勉強はつらいが研究は楽しい



理工学部長

たぐち  
あずま  
田口 東

入学おめでとうございます。今年から理工学部には都市環境学科が加わります。昨年度の生命科学科とともに、これまでカバーしていなかった生命・環境分野が展開されるので、先端的な研究はもちろんなること、基礎的な教育においても大きな刺激となり、元気のよい理工学部になることが楽しみです。さて、大学生になると、自分で決めなければならぬことが沢山あるのに気がきます。学生生活の自由度が大きく、自分自身の責任で物事を決めるチャンスが多くなるのです。これは勉強への取り組み方に強く表れます。

私たちは、皆さんが新しい課題に挑戦して、自分自身のユニークな解を提案できる力を身につけること、将来にわたって、そうできる環境を維持し続けることを期待しています。ずいぶん難しいことのように思いますが、基礎から

ら応用へと続く理工学部のカリキュラムを学び、それを基礎とした「研究」の体験を通じて、そのような力がつくと考えています。研究は新しく楽しい体験です。卒業研究では、私たち教員や大学院生の指導を受けながら、かなりの部分を自分の力で進めるチャンスが得られるのです。単に学ぶだけでなく、研究を通じて「知」を創造する訓練を積み、成果を得る喜びを味わうことによつて、将来未知の課題に出会ったとき、それを解決する能力を身につけることができます。上の事に加えて、私たちが皆さんに望むのは、自然にしても社会にしても、その中の仕組みに対して、素直に興味を持つこと、自分なりの答えを見出すまでの持続力を身につけること、そして答えに自信を持つことです。そのために、ゆとり本を読む時間を作ること、良い友人を作ることを勧めます。

## 古典のすゝめ



文学部長  
宇野 茂彦

新入生のみなさんご入学おめでとうございます。

諸君は「大学」という書物をご存知でしょうか。校庭の片隅などに今でもあると思いますが二宮金次郎が薪を背負って本を読みながら歩いている像を見たことがあるでしょう。彼が読んでいる本が「大学」なのです。読む人が読めばこの本は大いに効力を発揮する書物のようです。

たとえば福沢諭吉の「学問のすゝめ」には「一身独立して一国独立する事」という章があるが、個人が修養を積んでそれが社会に及ぶという考え方は、じつは「大学」にあって福沢はそのような思想をアレンジして明治の日本に適用し主張したのではないかと思えます。

福沢は儒教嫌い、この本でも「女子と小人は養いがたし」を捉えて、それはその人々を束縛して自由を得

させない為である、というのは尤もなのですが、「孔夫子がこの理を知らず別に工夫もなく愚痴をこぼすとは頼もしからぬ話なり」などと腐しています。それでいて「論語」の言葉なども使っていて「これと思うはこれを学ぶにしかず」とか「古人の教えに、朋友に屢々すれば疎んぜられるとあり」とかあるが、自己の主張に合致するときは、「論語に曰く」とは書かず、或は「古人」などと曖昧に述べて儒学を隠すのは、些か不都合ではなからうか。

しかしながら福沢の文章は実にいきいきと委曲を尽くした名文であって、それも儒学を含む古典の素養があつての故であることは、我々はよくよく知っておかねばならないと思えます。

諸君が本学にあつて、古典を読むことにより思索を練り、それを表現する力を養うことを願います。

## 政策と文化の新たな融合



総合政策学部長

よこやま  
横山 彰  
あきら

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

第17期生の皆さんを迎える本学部は、創立15周年記念事業を機に新たなステージに移りつつあります。新たなステージに移る原動力は、新入生の皆さんと同じように新年度から新たに本学部の専任教員として加わる複数の先生方です。魅力ある新任の先生方が加わることで、皆さんは基礎演習や事例研究などで先輩たちよりも一層多様できめ細かなゼミナール教育を受けられるようになります。

皆さんは、これから本学部の特色である「政策と文化の融合」を体験化していくのですが、その融合の素を提供するのは先生方です。融合の素として新たなものを提供する新たな教員が加われば、融合そのものが変容し新たな融合が生起します。また、皆さん一人ひとりが融合を変え

る力を持つている点を自覚してください。同じ融合の素に直面しても、それらを皆さんが如何に料理するかで、融合も変わってくるからです。さらには、料理するときに皆さんがもつ火力次第で、融合の状態も変化するからです。

政策と文化の新たな融合をもたらすには、融合の素を提供する先生方の力だけでなく、皆さんの料理に取り進む前向きな姿勢や火力も不可欠なのです。皆さんは、卒業するとき「政策と文化の新たな融合」とは何かを自分の言葉で語ることができるようになれば、自分が大切にしていく社会を自分ができる火種を手にした「総政人」となるでしょう。

素晴らしい人びととの出会いを大切にして、「総政人」として大きく成長して頂きたいと思えます。